

人間科学部改組について

一九九三年に発足した人間科学部は、家政学部を改組して作られた学部である。家政学は神戸女学院の教育理念であるリベラルアーツ アンド サイエンスの考え方に則って、大学教育発足当初から大切にされてきたものであり、学科として独立したのは一九三二年である。家政学部では、サイエンスがそれまでもカリキュラムに組み入れられてきたが、この改組によって家政学部は、人間科学部というよりサイエンスを前面に出した学部となった。

二〇〇八年で人間科学部は改組一五年目を迎える。この機会に、改組に至る事情について、家政学部時代から在職し、人間科学部改組に際して中心的な役割を果たした人間科学部教授・山本義和先生にお話を伺うことができた。

山本先生へのインタビューは先生の研究室で行なわれた。先生は事前に資料も準備してくださっていて、内容の濃いお話を伺うことができた。取材は、途中一度中断があったが、二時間余の長時間に及ぶものとなった。ご協力くださった先生にここで改めて御礼申し上げる。

以下の記事は、二〇〇七年十月二十九日に行なった山本先生へのインタビューを元に編集・構成したものである。

(文責・佐伯裕加恵)

史料室(以下、史と略す)… 多用のところお時間を割いていただきましてありがとうございます。山本先生には家政

学部から人間科学部への改組のいきさつ、当時の事情などについてお話いただきたいと思います。

山本先生(以下、山と略す)… 『神戸女学院大学〈人間科学部〉増設の計画と実際』^①という堅苦しいタイトルですが、こういう本があります。ここに人間科学部設置の概略と、なぜ家政学部を改組して人間科学部を新設したのかを書いています。

神戸女学院は、改組等をほとんど行なわない大学として有名だったのです。今は各大学で積極的に改革が行なわれていますね。神戸女学院では学科や学部の新設が長期間なかったのです。臨時定員増すらしてないです。だから稀有な大学の一つだったのですよ。それは良いという風に評価できる面もあると思います。あまり世の中の動きに惑わされないというか、無視していたというか、超然としていたのかもしれないけれども。そういう中で家政学部の改組計画がスタートしました。この本に書いてあることは、公表しているようなことばかりですからオープンにしても問題ないと思いますね。

史… 人間科学部改組の話が出てくるまで神戸女学院としては新しい学部を作るという考えはなかったのでしょうか？

山… ほとんどなかったのと違います？ 社会科学から総合文化学科への改組^②は実質的には文部省審査がほとんどなしていったでしょ。学科名称変更的な形で。教員個人審査もなかったはず。そう聞いていますけどね。

神戸女学院の理事会も変わったと思いますよ。その昔の理事会っていったら、表現適切じゃありませんけど、サロンの感じがしていました。今は全然違うでしょ。学院の将来と現実を見据えた会議が行なわれ、行動がとられていると思います。学院全体の意識も大きく変わったと思います。城崎先生が理事長兼務で院長として来られ

た時期と人間科学部への改組が具体的に進行した時期が大体重なっていたと思います。

史… 実際に家政学部が人間科学部に改組されたのは一九九三年のことですが、古い会議の記録を見ますと、その何年も前に家政学部改組という話が出ているようなのですが、そのあたりのことをお話いただけますか？

山… 私は一九七九年に専任教員として神戸女学院大学に着任しました。その時の学長先生は八木先生、一九七七年に学長になられたと思いますが、学部改革構想を熱く語っておられました。八木学長と矢野家政学部長^⑤は、家政学部は女子大学の伝統的学部ではあるが、先のことを思うと改組した方が発展性があると考えておられました。その時は家政学部だけじゃなくて、文学部の総合文化学科との関係を含めて、より良い発展形態を考えたいとおっしゃっていました。家政学部教授会で学部改組が具体的な話題として、私が着任して間もない頃から始まったと思います。家政学部の中に食物学科と児童学科の二学科がありましたから、学科でも学部でも相当の頻度でこの問題が検討されました。専門委員会やサブグループができて、調査等もされていました。

それと総合文化学科との関係も一つの大きな課題だった。総合文化学科の中でも特に心理学と社会福祉学。いろいろな角度から検討がなされていても、賛否両論ですね。家政学部の一つの大きなメリットは、女性のための伝統的学部。新良妻賢母にサイエンス色を少し加えた学部にできないか？とも言われていました。しかし、この「新良妻賢母」という言葉に違和感を覚える女性の先生が多くおられたように記憶しています。家政学部では家庭教員免許、保健教員免許、児童学科でしたら幼稚園教諭、食物学科では栄養士の免許を得ることが可能でした。免許の価値は大きいと思います。しかし、新しい学部ではカリキュラムが最も重要です。これだけの免許・資格をそのまま温存して新しい学部を考えると名称変更ぐらいのことしかできないのです。免許・資格に必要なカリキュラムが決まっていますから。

その当時は一四〇―一五〇単位履修して卒業する学生が多かったですね。ここに新しい科目を多く追加することとは難しい。そこでの大きな選択肢としては次の二つでした。①免許・資格を重視するので、大改組は考えない。②免許・資格は限られたものにして、新しいカリキュラムを取り入れて時代の要請に沿う学部にする。その時すでに人間科学部という名称が具体的に上がっていました。学部の内部でも賛否両論がありました。これは他学部の先生方にいろいろな形で波及しますよね。そういう風に伝えるかによつて反応も当然違う。家政学部では何回も何回も会議を重ねました。最終的には、家政学部教授会で「家政学部を人間科学部に改組する」ことが採決されました。

史… この時点で家政学部内では改組の方針を決定したということですが、どうしてそのまま改組ということにならなかったのですか？

山… 全学教授会に行くまでに、同時並行的に将来計画委員会がありました。この会議は大学の役職者が集まるところですから、全学的な見地から議論があった。そこでもいろんな観点から議論がありましたけど、右に行ったり左に行ったりしていたと思いますね。ですけど、全学教授会に諮ってみようということで、全学教授会で学長や学部長から構想が説明された上で皆さんのいろんな意見を伺う機会が数回あったと思います。ですけど、一言で言ったら、家政学部を人間科学部に改組することに反対の声が強かったですね。

世の中一般、反対の声は大きいですよ。経営的観点、ビジョン、カリキュラム、女子教育とは何か、就職問題、入学者の確保とか、先への課題はいくらでも挙げられます。まあどうでしょうね、これは私の直感で、表現は適切ではありませんが、「家政学部は家政学部のままで免許・資格でやったらいい」、「サイエンスがどうかとか考えないでこのままでもいい」と、極端に言ったらそうです。もちろん、そういう表現は使われませんが。採決

する場合でも、こういう重要事項だから可決条件二分の一を三分の二に変更すべきとかね。

とにかくいろんなことがあったのですが、「全学教授会では家政学部の人間科学部改組への支持が充分でない」との学長判断で、採決するまでには至りませんでした。私はそこでいろんな会議で議論を尽くしてきたので、全学教授会での採決をしてほしいと思いましたけどね。結局、組織としての態度が明確にならなかった。

史… ではここでいったん改組の話は立ち消えになってしまったのですね。

山… そうです。その後、数年間は具体的には何もおこらなかった。ですけれども、世の中も大学自身も劇的に変化していた時代でした。そういう中で神戸女学院の学部構想が、必ずしも家政学部だけの問題じゃないというところえ方がされてきました。特に総合文化学科は非常に大きな所帯になって、いろんな学問分野が新たに入ってきていたでしょ。総合文化学科のプリンシプルをもう少し明確にできないかという考え方が総合文化学科の内部にもすぐありました。文化を中心に扱う学問領域の学科にしたいという考え、それと社会福祉と臨床心理はかなり実学的じゃないですか、これらを家政学部とうまく関係づけて新しい学部作りをできないかという考え、あるいは総合文化学科の前身である社会学領域の充実を図りたいなど、さまざまな意向がありました。学部改組の議論が再開されたのはそこだと思っていますね。

史… この頃、改組とは別に自然科学系コースを作るという考えもあったようですが。

山… そちらへんも微妙でしたね。微妙でしたというのは、自分が関心を持っている領域が改革によって発展できないかと誰しも思います。そういう中で出てきた一つの発想が、自然科学を中心にしてそこだけでの改組が考えられないかというアイデアです。組み替えではなくって、これを核にして。だけど話が具体化してきたら、そういうことをすると神戸女学院は財政負担でつぶれるとか、そういう声が大きくなって、自然科学批判も強くなっ

てきた気がします。

史… では、具体的に改組の話が進むきっかけは何だったのですか？

山… 私、記録していますけど、学部改組の仕切り直しをしてから何十回と将来計画委員会をしています。山口学長の時代^⑥かな。ここでも前回の改組計画と同じように行ったり来たりしているだけでした。具体的には前に進んでいない。ノーならばノーでいいのです。家政学なら家政学のままで充実を図るというのも一つの立派な方針だと思うのです。それがしっかりした内容であるならば。

家政学部の教員に欠員ができて学部自体が将来どういう方向に向くのかはつきりしない状態で、教員を新規採用したら、年齢にもよりますが、その方は長い期間神戸女学院に居られることになります。専門分野を途中で変わってといっても変わらないでしょ。そのような問題があるので、家政学部では教員採用を控え続けてきたのです。だから卒論まで非常勤教員で担当するような時代がありました。特に児童学科はつらい時代でした。学生さんが一番被害者ですよ。そういう状況が長く続いていた。

そういう時に運悪く、私が教務部長になったのです^⑦。教務の関係はもちろん教務部長が担当しなければいけません。改組は家政学部を中心とする問題だけど全学としての方針を明確にしなければいけないと思ったのです。前に進むなら進む。あるいは、今の形のままで充実を目指すという選択肢、どちらかはつきりしなきゃいけないと。それで若干強引だったかもしれないけども、ある一定の期限内で方向性をだそうとそれなりの努力をしました。この頃に小玉先生が学長^⑧に、城崎先生が院長に就任されました。その時は私も若かったからね。

史… 今、教員採用を控えていたとおっしゃいましたが、それは家政学部内でのことですか？ それとも全学的に意識されていたことですか？

山… 家政学部内でのことです。家政学部の内部では、将来を見据えた人事をするべきだという考え方が根底にかなり強く、安易に新任人事をするべきじゃないと。それはね、家政系学部ならば、被服、住居、食物、児童の四分野の柱が必要です。大学設置基準ではそういう領域の専門家を揃えないといけないのです。栄養士も同じです。結局、新任を採るとしたら免許と資格に限られた人材になるわけです。新任の方が新しい時代に沿った形での対応ができるかというと、専門性が限られていますからかなり難しいですね。教員はいわゆる「専門バカ」だから。だから新規採用にはすごく慎重になっていた。

史… ということは、家政学部内では改革を望んでいたということですか？

山… 声に出さない方もいらつしやいましたが、家政学部の中では改革した方がいいと考える方が多かったと思います。だけど変えない方がいいという主張を展開されていた方もいらつしやいました。

そういう中で具体的な形で出てきた考え方は総合文化学科とのドッキングです。

史… 総合文化学科と一体になった改組ということですか？ その場合の学部のイメージはどのようなものでしたか？

山… 改組後の名称を具体的に言ったら生活科学部か人間科学部です。生活科学だったら免許・資格を残せます。だけど実質的には名称変更であって、内容変更はほとんど伴わない感じです。奈良女子大学は家政学部を生活環境学部に変えている。あちこちの大学で家政学系はそのようなことをしていました。人間科学部は大阪大学だけではなくて、神戸女学院に先立って三、四校、人間科学部ができたと思います。そこでは人文・社会、教育、特に心理学が人間科学部に入っていたのです。人間科学というのは、どちらかといえば人間関係学というのかな、そこらが注目を集めてきた時代で、女性からのニーズもあるし、将来性もある。

総合文化学科には臨床心理の先生がいっぱいいました。児童学科にも臨床心理、心身医療、精神医学の先生方。そういう先生方が別々の学科に所属している。教育学も児童学科と総合文化学科の両方にあった。もつと効率よくできないかという考えが自然に起こります。それと社会学です。社会学は総合文化学科の前身でしょ。社会学の先生方は社会学の誇りとか伝統をアピールしたいという思いをお持ちだったですね。社会学が総合文化学科から独立して一つの核をつくるという考えもありました。私たちも社会学の人たちという話をしました。具体的には社会学、教育学、臨床心理、社会福祉、そこまで含めた形で家政学部と組んだ新しい学部の開設を考えました。最初の風呂敷がどこまで縮んでいくかということはありますが、そういう形で話は始められました。

史.. そういう話になった時、総合文化学科の先生方は前向きでしたか？

山.. それはね、総合文化学科の中でもいろいろあったようです。大きく捉えて改革構想自体の是非がありますし、誰と別れて誰と一緒にになるという人間関係の構造の方に関心が強い方もありましたね。なまめかしい話が具体的にはいろいろとありました。そりゃ人だから、やつぱり。

それで結論的にはご存知のように社会学は総合文化学科に残る。臨床心理の先生と社会心理の先生は人間科学の方に、社会福祉の先生は人間科学に來ないで総合文化学科に残る、というようなことですね。そして、児童学科で教育学の先生は総合文化学科に移るということになったわけです。

史.. 人間科学部に改組すると決定された時^⑨には反対はなかったのですか？

山.. それまでは反対の主張を唱えていた先生も、全学教授会や理事会で意思決定したからその方向に従いますとおっしゃってくださった。それはすごく嬉しかったです。「主義主張は違うけれども組織としての方針が決まった

のだったら、私は協力しますよ」と言ってくださった方が何人もいらっしゃいました。組織では採決をきちっと採ることが大切だと思いますよ。

史.. 人間科学部に改組することによって免許を手放すことになるわけですが、そのことに対する反対は大きかったのですか？

山.. 学部内でも学科内でも「免許なしでやっていけるのか」、「免許をあくまでも大切にしていくなきゃだ」、「免許を捨てるとは何事」、そういう反対意見がありましたね。人間科学部は教員免許ないでしょ。家政学部か生活科学部でないとならぬ免許は残せないのが文部省の方針だったのです。

私たちはデータで考えたかったです。家政学部の学生さんは、卒業時に免許・資格はとっていくのです。栄養士の場合は、すべての科目が必修ですからそのコースに入ったら全員栄養士の資格をとらなければならないのです。理屈の上では栄養士の資格を取るか退学するかどっちかなんです。そういうコースなのです。それから家庭科教員や幼稚園教諭免許も多くの人がとっていました。免許・資格をとって卒業するのですが、その免許・資格がどう生きているかという？ 例えば教員や栄養士になる卒業生がどのくらいの割合でいるのかということ。データを経年的に見ていましたけど、ほんとに少ないですよ。五〇〜六〇人卒業されて数人。それでも免許・資格は重要だという見方もあります。いつかは役立つという考えもあります。それよりも免許・資格にとらわれずに、学問の純粹性や自由なカリキュラムを重視するということ。どちらにするか、実に大きな選択だったと思います。

史.. 人間科学部として免許・資格をとれるようなコースは考えなかったのですか？

山.. そうですね、最終的には考えられなかったです。社会科あるいは理科の教員免許という考え方もありました。

そのためには、特定領域の教員が何名必要ということになってくる。例えば理科だったら物理とか化学とか生物とか、そういう領域の専任先生が必ず必要です。それから実験室がこれだけ必要だとか。だから物理的に制約がかかってくるのです。できるものなら教員免許がほしいと思いました。しかし、学内では改組にお金をかけるなという雰囲気が強くなりましたから、それはつらかったですね。

免許・資格がなくなるとは仕方がなかった。今では人間科学部の中でもいくつかの資格はとれますでしよ。資格志向を全面的に放棄したわけじゃないのです。カリキュラムで資格科目が大きな比重を占めることはやめましょうということです。資格を重視すると改組できないし、神戸女学院の建学理念にもそぐわないと思うのですよ。幅広い領域から「リベラルアーツ アンド サイエンス」という形で勉強することを大切にしたいと思います。そのためには、自由が必要です。例えば栄養士と家庭科教員免許を取り入れて大学設置基準を満たすすれば、どの大学でもカリキュラムはほとんど変わりありません。神戸女学院に来ての良さが享受される可能性はすごく低いわけです。そういう意味では人間科学部は自由になったのと違います？

史… 自由になった分、カリキュラムが組みやすくなったということですね？

山… カリキュラムは組みやすくなりました。教員の幅も質も改組前に比べてうんと変わったのと違います？ 新任人事では、幅広い範囲で募集ができるので良い人材を得られる可能性が高くなったと思います。

史… 改組にお金をかけないという点でもこれでよかったということでしょうか？

山… 実際に人間科学部への改組ではほとんどお金をかけてませんから。建物は建ててないでしよ。改組計画がスタートする前と比較すると教員数もほとんど増えてないでしよ。総合文化学科から三名が人間科学部に移籍し、家政学部から一名が総合文化学科に移籍し、差し引き二名減の総合文化学科では補充をしないというのが、経営

を考えたときの小玉学長を中心とする大学執行部の考えでした。しかし、数年後に総合文化学科では補充されたがね。人間科学部では入学定員を一一〇名から一五〇名に増やしました。これは財政的には大きいと思います。神戸女学院は学生定員数が少ない形でやってきたのだけれども、ご存知のように授業料は高いですね。これ以上にあげるのは難しい。だけど校舎も古くなってくるし、教育設備とか人的面でのケアなどハード・ソフトの両面での充実を考えたら、もう少し学生数を多くしないと財政的に苦しい。私たちが改組する時、經理の人たちから経営状態などの資料を見せてもらいました。今回の改組では、投資を少なくして学生数を増やすことができないだろうかと。

文部省の役人、「神戸女学院はこれだけ少人数の学生で経営が維持できますね」と言っていましたね。ほとんどの大学では、受験生人口の急増期に臨時定員増をしていましたでしょ。年限を決めるけれど、その間定員を増やしてくださいと文部省から大学に協力要請があつて、ほとんどの大学がわずかな投資で定員増をしました。その時だけは、従来の設備等そのままで結構ですということだったのです。神戸女学院はそれをしなかったのです。良かったのかどうか？ 今の時点で判断すると良かったのかもしれませんが。

史… 学内で改組の合意を得てからどうされましたか？

山… 私は、ある方に紹介していただいている大学の事務局長をされている方に相談に行つたのです。その方が文部省の課長補佐を紹介くださって、小玉学長と中里教務副部長と三人で文部省を訪ね、いろいろな話を大筋で聞かせてもらいました。どういう順序と段階で考えていくべきかがかなり分かりました。学部を設置は文部省の許認可事項なので、大学としてこうしたいと思つても、許認可されないものは絵に描いた餅です。だから文部省での認可の諸条件をはっきり聞けたことは、学院や大学内で「認可を得るためには仕方ない！」ということも含めて

だけど、方向性を絞ることができたという面では大きかったですね。

史… その後、申請するまではどういう風に進みましたか？

山… 文部省では、申請受け付けは始まってないけど事前相談というのがあって、人間科学部の申請相談の頃、文部省に申請したいという大学からの相談が一〇〇校あったらそのうち二〇校くらいが申請にこぎつけるといわれていました。事前相談の段階でスクリーニングに残った大学だけが申請受付審査に臨めるのです。

申請を受け付けてもらうのはかなり大変ですが、受け付けてもらったら高い確率で認可までいきますね。申請を受け付けた大学は文部省から公表されます。新聞等にもいろいろ載りますでしょ。そこに至るまでには文部省が事前に充分チェックしていますという意味があったのですね。今では、学部新設や学科名称の変更などがかなり自由で、文部科学省は口もお金も出さず、責任もほとんど持たないですが。

そういう相談をしながら大学内での会議も同時進行したわけです。人間科学部の方向性は大学将来計画委員会で認めてもらったものと文部省に申請する段階^⑩ではだいぶ変わりました。

史… 文部省での事前相談の段階で人間科学部は理科系ではなくて人文社会系になったということですか？

山… 人文社会系ではないですよ。これにはかなり複雑な過程があります。

当初は理科系色がかなり強かったです。事前相談で、今回の申請は学部改組ではなく、人間科学部という新設学部を増設し、家政学部は在学生がすべて卒業した時点で廃止する形式の審査になりました。そのときはびつくりしました。その当時、学部増設は大学新設と全く同じ審査が適用されるのですよ。だから、教学や事務組織、理事の構成、規程の整備、建物、財務から債権一つ一つまでチェックされる。しかも二年間審査で。今でも新しい大学一つ作るとなると大変でしょ。旧大学設置基準ってすごく厳しかったですよ。学生数が何人ならば、校庭、

校舎面積がいくら必要で、その校舎を金額で表わせばいくら必要で、と決まっているわけです。

例えば校地面積に関して言えば、神戸女学院のキャンパスには中高部と大学がありますが、どこが境界線？といわれたら、答えられないでしょ。そういうこともすぐ問題にされるのです。それは結局、大学として標準校舎面積とか校庭面積をどう計算するかということ。全体面積は相当広いことがわかって、例えば四分の三は中高部で四分の一が大学だったら全く話が狂うわけでしょ。そういうような類のことに、全然気がつかないことが多くありました。

設置基準は理系的な要素が強いほど厳しくなります。これはカリキュラムによって変わってくるのです。例えば理学部系の学部で入学定員が一〇〇人だったとしたら、専任教員は何人以上、標準設置経費としては何億円必要と、決まるわけです。標準設置経費は更に細分化されて、図書でいくら、建物でいくらとか決まっている。建物でいくらというのは神戸女学院にとって一番厳しかった。なぜなら神戸女学院の家政学部の建物（理学館）は三千万円程の価値しかない。減価償却しきっていて、ゼロにはならないというだけ。ここをメインにして新しい学部作りと言うと、「新しく建物が必要です」と言われました。校舎の価値を不動産的な価値基準だけで判断する文部省の考え方に反発を覚えて抗議をしたことを思い出します。

史… 施設面でダメだと言われても急に建物を建てたり、校地を増やすことはできないですね。では、どうされたのですか？

山… 神戸女学院では人間科学部の設置に使えるお金の準備ができなかったので、カリキュラムの方を変更して標準設置経費自体を下げるしか方法がない。理科系色を少し弱めると必要経費が下がるのです。科目名称も少しソフトな名称にする。実験という名前は使わず、実習にするとかね。人間と何々という関係で科目名を表わすと、少

し社会科学的な雰囲気が出てくる。開講科目数も少なくなった。そのようなことをしていったのです。

しかし、それでもクリアできない。だから結局どうしたかというところ、建物に関して次のように対応しました。

一〇億円の建物を建てた時には一〇億円の価値がありますが、毎年何パーセントか減価償却していく。一〇億円で一〇階建ての場合、一階あたり一億円です。人間科学部構想を考えている時、新しい図書館^⑪と新しい音楽館^⑫が建設されていきました。それで、図書館の四階は人間科学部専用になれば何億円という単位が出てくる。それから人間科学部の開講予定科目に音楽文化論がありましたから、新しい音楽館で授業や実習を行いますと。そのような工夫を重ねて、申請を受け付けてもらえるように努力しました。

史… 改組というのは単純にカリキュラムだけのことを考えればいいというのでは済まないのですね。

山… 財政(お金)に関することはいろいろありました。私なんてお金のことは全然縁がないと思っていただけ。財務審査は厳しかったですよ。その当時の経理部長や経理課長さんは大変だったですよ。膨大な資料を用意しなければなりません。大学が経営的にも安定して維持していけるという見込みがないと認可されないのです。それも、すぐに現金化できるものでないと、大学の設置経費として認められないのです。だから普通預金に近いようなものが学部の新設には必要です。学校としては二号基本金といいますが、将来計画に備えてお金を用意しておく必要があります。資金があるからこれを流用して使いますといってもダメです。さっき言ったようにお金と関係しているのがカリキュラムだったのです。

人と人との巡り合いがなかったら人間科学部の申請は受け付けられなかったかもしれないと思うこともあります。女学院卒業生の方の知人が文部省関係でおられた。その方から非常に貴重なアドバイスを一言いただいたことは一生忘れられません。神戸女学院は素人集団で、申請するときも本当にどこにも相談しなかったですよ。

史… ではその時初めてプロの助言をもらったということですね。

山… 申請間近のところで文部省のお役人との折衝で瀬戸際までいった時期がありました。学部学科構想の中身とお金との関係というところなんです。一方はいわゆる教育の内容を審査するところ、もう一方は財務等を審査するところ、文部省内での担当課は別ですが、この二つの課はすぐリンクしている。神戸女学院の人間科学部はどういう学問領域の学部と判断されるかによって必要金額が変わるのです。神戸女学院の方ではできるだけ説明をして、できるだけ設置経費が安い学部の内容だということを言いたかったわけです。とにかく「神戸女学院の人間科学部は理系を含んでいるが、全体としては社会科学系の学部である」という主張を絶対崩しませんでした。崩さないで徹頭徹尾その主張を続けました。もし崩せば標準設置経費がクリアできないので申請が受け付けられないことが明白でしたから。

私たちが文部省で申請を受け付けてもらった時にいくつかの業者さんが来られて、神戸女学院が文部省審査のまな板に載ったってびっくりしていました。素人がそうしたって。丸善、紀伊国屋とか、事務や実験機器メーカーの大手は大学設置相談室というのを持っているのです。大学はそういうところと相談しながら申請を進めるのが普通だったようです。そこにはその関係のプロが居て、「この問題はこう考えたらいいとか、ここへ問い合わせてみますからとか」のアドバイスをくれます。世の中そういうものかな？ 神戸女学院はそういう世界を知らなかった。変な言い方だけど、何も知らない素人集団が一生懸命取り組んでいたのですね。

史… 改組に向けて学内の協力という点で苦勞されたことはほかにありますか？

山… 全学的なことで一番頭を痛めていたのは、文部省での教員個人審査です。担当予定者がその科目を担当するためには、審査を受けて「その科目の担当資格あり」と判定を受けなければいけないのです。審査では、担当予定

科目に対応する研究業績が重視されます。ですから、いろんな要素を考えて科目を設置しました。具体的には、全学共通科目の中からピックアップして人間科学部だけの一般教育科目群を設けた。枠を狭めることによって、教員審査の人数を少なくしたわけです。それでも九〇人ほどだったかな。これはその時の履歴書と研究業績書です。非常勤の先生にもこれらの書類を書いてもらわないといけないのです。大変ですよ。科目の担当歴から個々の論文概要まで全部ね。学部開設後に採用予定の先生、例えば三年目から来てもらう約束をしていた先生には、神戸女学院に就任しますという実印まで押してもらった誓約書が必要でした。現職の長からも了解(割愛)をもらわないといけない。

とにかく今では考えられないくらい厳しい。審査過程では科目は変えられないのです。科目を変えることは構想を変えることだから、科目に合う人を持つてくることになる。科目も担当者も完成時までは変更したらダメです。変更するならば、それなりの合理的理由を説明して、代役をすぐに立てて審査を受けなければいけない。ちやうど私たちが申請するのが旧大学設置基準の最後の年だったかな。私たちがもう一年申請を遅らせば、翌年からは審査がうんと緩やかになった。だけど学内で私たちは新しい学部作りをしますと宣言して、一年置いて申請するとなったら学内的にしぼんでしまうのは目に見えていました。ですから、やらざるを得なかった。

教員だけじゃなくて職員の方がすごく頑張ってくださいました。例えば家政学部事務長、デフォレスト館(大学事務棟)では大学事務長、教務課の方々、入試課の方ね。具体的に教室はどこを使うかを全教科について時間割の形にして各教室をあてがわれる。それによって教室数が不足していないことを文部省に証明しないといけない。文部省の指示に対応しないと学部の設置が白紙に戻りますから、この段階になると学内であまり反対もなかったですね。改組が前提で難題をクリアすることに全員が協力してやってくださったと思いますね。

史… 科目担当の先生方まで細かく審査があるというのは、カリキュラムを組む上で大変なことですね。

山… カリキュラムを組むにあたって家政学部内で学校のポリシーに関わるような議論が結構ありました。それを具体的にカリキュラムに反映するとどういう科目が組めるのかという議論になります。特に児童学科では改組前には先生の数が少なくなっていました。我慢に我慢をしていた状態だったから七、八人^⑬だったのと違うかな？ 当時の名簿を見たらはつきりわかりますけどね。だから新学部に備えて新任をとれる余力はあったわけですが、どういう領域の方を求めるのが非常に大切なことでした。こちらの意志じゃなくて、文部省審査の過程でこういう領域の専任の教員が必要でと言われる可能性も充分にあるのですね。だからそれに対してのちよつとストックも持っていないといけない。実際そういうこともありました。一年目の審査終了時に、この学問分野でこういう領域の専任が不足ですので、用意してくださいと言われた。

史… 申請後、教員審査などの審査を受けなければならないということですが、それはどういうものでしたか？

山… 二年間にわたって審査がありますから、書類審査以外に面接審査や実地調査もありました。一年目はいわば基本構想審査です。基本構想審査ではカリキュラムや教員構成が見られて、この領域の担当者は専任でなければいけないとか、こういう科目を置きなさいとかが一年目で指示されるわけです。二年目は個人個人の教員審査です。完成年次まで文部省の監視下です。その間は基本的には変更しないのが大前提です。申請時から計算すると六年間ということになりますね。だから教員の年齢問題も実際上は大きくてね。途中で定年をお迎えになる先生がいっぱいいらっしゃるでしょ。そういう場合は基本的には申請に載せられないのです。完成年度までおられないから。そういう場合はどうするか？ 何らかの方法で専任として神戸女学院で完成年度までいていただくのか、あるいは退職予定の先生に代わる方を用意して申請時に審査を受け、実印までもつけた就任承認書を添えるという選択肢が

あります。結局、完成年次までに定年をお迎えになる先生方には、特任教授という専任の形で来ていただきました。

一年目の審査が終わって二年目の学内視察があった時に、情報科学演習という科目があるのですが、入学定員を四〇人増やしているので授業のやり方を詳細に聞かれた。どの部屋を利用して、そこに何台のパソコンを置いて何名が受講するのか、月曜日から金曜日までの時間割の中でどういう風に配置するのか、それを出すように言われて。結局それに対応できなかった。そこで、急遽プレハブ校舎を理学館から第一体育館への渡り廊下に建てました。本当のプレハブだったので阪神・淡路大震災で倒れたでしょ。あの建物だけが人間科学部に係わる建物。

史… 完成年次まで変更ができないというのですが、カリキュラムは四年たったら変更可能なのですか？

山… 可能ですけど、文部省は四年終わったからボンと変えるというようなことをしてもらっては困るということでした。しかし、規制するものはないので、全学共通科目を中心にかなり変更しました。

史… 始めから完成した段階で人間科学部のカリキュラムに手を加えようということを考えていたということですか？ 大学院はどうでしたか？

山… 考えていました。特に一般教育科目はそうですね。大学院の修士課程の設置もすぐに連続してしました。更に続いてドクターコースの設置^⑮もありました。私はずっとこんなことばかりに関わっていましたね。家政学部には大学院がありませんでしたが、人間科学部の大学院は文部省の制度が学部設置の時とは大きく変わっていたので比較的簡単に認可をもらいました。

史… 連続してすぐに大学院の申請をしたというのは、流れとしてこのまま大学院申請までいってしまった方がいいと思われたからですか？

山… それはそうですね。いったん中断してしまつたらエネルギーとしてダメじゃないですか。まあ幸いにして大学院志願者もある程度確保できて何よりです。家政学部を改組したいと考えていた時には大学院の関係もあったのです。家政学部では修士までのコースは認められても、ドクターコースは認められなかったのです。何でと思いますけどね。家政学部は日本の社会の中ではかなり小さな狭い世界のように受け取られていたことは間違いないと思いますよ。その当時、新学部を「ヒューマンエコロジー学部」として考えてみてはどうかというアイデアもありました。いい案だと思ったけれど学部名称にカタカナは使えなかったですね。

史… ところで、人間科学部を一学部一学科二専攻とされたのはどうですか？

山… いいことおっしゃいますね。それはね、学内での最終的な意思決定の直前まで一学部二学科案でした。「一学部一学科の方が学内合意を得やすいのではないか」という意見が人間科学部の中で出てきました。そういう形でスタートして結果的には良かったと思っています。学科教授会が人間科学部教授会と同じ組織になるので、今まで別々に開催されていた会議が同じ場に集まって会議することになりましたので、会議内容がお互いによくわかるのです。それと、顔をあわせる機会が多くなつて学科の壁が低くなり、人間科学部の先生方お互いによくご存知です。そういう面ではすごく良かったと思います。それは、現在の二学科^⑧になつてからも引き継がれている良き面じゃないかな。

ただ、一学部一学科二専攻では対外的なアピール力が弱いのが、徹底的につらかったですね。学科でなく、専攻では出てこないですよ。出てこないというのは、例えば受験雑誌などの受験業界かな。最小単位は学科ですもん。神戸女学院大学が改組して数年後ぐらいから、人間科学部を新設して臨床心理分野を置く大学が急速に増えました。人間科学の中には心理学があるという認識が世間で強くなり、人間科学は心理学とニアリーイコールと

いう感じができて、心理学はいい状態。もう一方の環境科学とか人の肉体的な健康を扱う領域はちょっと目に付かない。

そういうこともあって二〇〇五年度の入学生から人間行動科学専攻は心理・行動科学科に、人間環境科学専攻は環境・バイオサイエンス学科に、名称を変更したのです。学科名称を学ぶ内容ではつきり表現しただけで、高校生も大学生も学科内容が具体的にイメージできる。高校生はこのような領域で学ぼうという意志を持って人間科学部に入学してこられる。心理・行動・環境・バイオサイエンスと欲張ったキーワードを使っていますが、学科の中身を長い文章で細かく説明しなくても学科名称で大体わかる。良かったと思いますね。

家政学部を人間科学部に改組する方針が学内で了承されて、文部省に申請のための相談に行っている期間がほぼ一年、申請して審査を受けている期間が二年、開設後四年間は細部の変更でもその都度審査を受けた。学内合意を得るまでも長期間だったから、今から思うと本当に長い道のりでした。

史… 長時間にわたってお話くださいました、ありがとうございます。

註

① 山本義和「神戸女学院大学〈人間科学部〉増設の計画と実際」家政学部から人間科学科（人間行動科学・人間環境科学専攻）に再編」大学改組転換研究会編、地域科学研究会発行、一九九八年三月、一一三頁―一三五頁。

② 文学部社会学科から総合文化学科への改組（一九七六年）は、手続上、学科新設に準ずる扱いで、学科増設という形がとられた。申請には担当予定者の履歴書、業績書、就任承諾書が必要であった。一九七五年九月二十九日附申請で、翌年二月十二日附で承認通知があった。通知のタイトルは「昭和五十一年度学科増設に関する協議について（通知）」である。

③ 城崎 進先生。院長在任期間は一九九〇年十月―二〇〇二年三月。この内、理事長兼任であった期間は一九九一年六月―二〇

○一年十月。

- ④ 八木一文先生。本学名誉教授。一九五二年四月—一九八六年三月在職。学長在任期間は一九七七年四月—一九八三年三月。
⑤ 矢野悟道先生。本学名誉教授。一九六三年四月—一九八八年三月在職。家政学部長在任期間は一九七九年四月—一九八一年三月。

⑥ 山口光朔先生。本学名誉教授。一九五六年四月—一九九二年三月在職。学長在任期間は一九八六年四月—一九八九年三月。

⑦ 一九九〇年四月—一九九三年三月。

⑧ 小玉佐智子先生。本学名誉教授。一九五六年六月—一九九四年三月在職。学長在任期間は一九八九年四月—一九九四年三月。

⑨ 一九九〇年十二月の全学教授会で可決された。

⑩ 一九九一年七月末の申請。

⑪ 一九八四年九月に建てられた図書館新館。地上四階地下二階建。

⑫ 一九八八年十一月に建てられたジョージ・オルチン記念音楽館。地上三階建。

⑬ 改組前の児童学科の専任教員数は八名。

⑭ 一九九七年四月開設。

⑮ 一九九九年四月開設。

⑯ 人間科学部が二学科になったのは二〇〇五年度から。

表1 人間科学部人間科学科カリキュラム(専門教育科目)案(1990年10月)

必修科目	人間科学Ⅰ：人間環境科学		複数者担当	
	人間科学Ⅱ：人間行動科学		複数者担当	
必修科目	人間科学Ⅲ：現代文明論／社会文化学		複数者担当	
	人間環境科学専攻		人間行動科学専攻	
必修科目	数理統計学	研究演習Ⅰ 全員	行動科学概論	研究演習Ⅰ 全員
	生化学Ⅰ	研究演習Ⅱ 全員	行動科学基礎実験	研究演習Ⅱ 全員
必修科目	生化学実験	卒業研究 全員	複数者担当	卒業研究 全員
	基礎生態学(含実験)		行動科学統計	
必修科目	基礎化学			
	化学基礎実験			
必修科目	基礎微生物学			
選択科目	環境・生態科学系列	生命・生活科学系列	臨床人間科学系列	情報・行動科学系列
	環境科学概論 環境科学 Ⅰ：人間と自然環境 Ⅱ：生態化学 地球環境学 環境科学実験 環境科学野外実習	生命の科学 生理学 生物有機化学 生物物理化学 栄養学 臨床栄養学 生化学Ⅱ	臨床心理学概論 臨床心理学実習 Ⅰ：心理テスト Ⅱ：投影法 Ⅲ：心理療法 Ⅳ：現場研修 複数者担当	情報科学概論 認知科学／認知心理学 言語科学 人工知能論 人間工学 情報社会論 データ解析
選択科目	生物生態学 植物生態学 動物生態学 微生物生態学 生態学野外実習	食品学Ⅰ 食品学Ⅱ 食品学実験 食品栄養学 調理学 調理学実験	精神医学概論 小児精神医学 青年期精神医学 心身医学 神経生理学 メンタルヘルス (精神衛生学)	性格心理学 発達心理学(児童心理学) 生涯発達心理学 社会心理学(人間関係学) 応用社会心理学
	人間生態学 環境保全論 技術環境論 環境経済政策学	応用微生物学 バイオテクノロジー 生命倫理学	深層心理学 臨床人間学 臨床性格学 健康心理学 カウンセリング	比較行動学 環境行動科学 コミュニケーション論
選択科目	生活環境学 Ⅰ：住環境学 Ⅱ：衣環境学	食文化論 食糧経済学 消費者問題論 家族関係論 生活経営論 生活構造論	人間福祉学 ケースワーク グループワーク	人間学 情操発達学 情操発達学実習
	外国書講読Ⅰ 複数者担当	外国書講読Ⅱ 複数者担当	外国書講読Ⅲ 複数者担当	人間健康学 (スポーツの科学)
選択科目			外国書講読Ⅳ 複数者担当	

註1.1年次から、学生は専攻別に分かれ、専門教育科目として、学部学科の必修科目を履修する。

2.2年次から、所属する専攻2系列の一方を主専攻(major)、他方を副専攻(minor)と、暫定的に定め、系統立った学習を開始する。

表3 人間行動科学専攻専門教育科目 (1993年度)⁽¹⁾

	授 業 科 目	時数
必修	環境心理学概論	2
	行動科学統計Ⅰ	2
	行動科学基礎実習	2
	環境科学概論	2
	発達心理学	2
	臨床心理学	2
	生命科学概論	2
	演習Ⅰ	1
	外国書講読	2
	社会心理学	2
	文化人類学	2
	演習Ⅱ	2
	卒業研究	
選択	認知科学概論	2
	運動健康学	2
	精神衛生学	2
	臨床心理学実習Ⅰ	2
	性格心理学	2
	認知心理学	2
	社会福祉学概論	2
	心身医学	2
	行動科学統計Ⅱ	2
	比較行動学	2
	音楽文化論	2
	精神医学総論	2
	臨床心理学実習Ⅱ	2
	集団・組織心理学	2
	深層心理学	2
	カウンセリング	2
	人工知能論	2
	認知情報処理	2
	神経生理学	2
	社会学概論	2
	臨床人間学	2
	精神医学各論	2
	精神分析	2
	臨床心理学実習Ⅲ	*
	比較文化心理学	2
	社会福祉学特講	2
	情報社会論	2
	人間工学	2

表2 人間環境科学専攻専門教育科目 (1993年度)⁽¹⁾

	授 業 科 目	時数
必修	環境心理学概論	2
	環境科学概論	2
	人間と自然環境	2
	生活構造論	2
	現代文明論	2
	生命倫理	2
	生命科学概論	2
	演習Ⅰ	1
	社会心理学	2
	人体の構造と機能	2
	文化人類学	2
	演習Ⅱ	2
	卒業研究	
選択	生物学概論	2
	生命の科学Ⅰ	2
	人間と生活環境	2
	食生活論	2
	化学実習	2
	生命の科学Ⅱ	2
	生命の科学実習	2
	人間と微生物	2
	消費者問題論	2
	環境科学実習	2
	環境保護論	2
	環境社会学	2
	人間と社会環境	2
	生活経営学	2
	食糧経済学	2
	栄養学Ⅰ	2
	食品学	2
	食品学実習	2
	食品プロセス学	2
	食文化論	2
	人間と化学物質	2
	動物生態学	2
	生物社会学	2
	生態学野外実習	*
	地球の科学	2
	生命の科学Ⅲ	2
	微生物学実習	2
	技術社会論	2
	社会病理学	2

表 3 (続)

(2)

	授 業 科 目	時 数
関 連 科 目	生活構造論	2
	現代文明論	2
	生命倫理	2
	人間と社会環境	2
	社会病理学	2
	家族関係論	2

表 2 (続)

(2)

	授 業 科 目	時 数
選 択	環境政策学	2
	都市環境論	2
	家族関係論	2
	栄養学Ⅱ	2
	食品プロセス学実習	2
	数理統計学	2
	健康医学	2
	バイオテクノロジー概論	2
関 連 科 目	認知科学概論	2
	運動健康学	2
	精神衛生学	2
	比較行動学	2
	神経生理学	2
	情報社会学	2

表5 心理・行動科学科専門教育
科目（2007年度）

(1)		
	授 業 科 目	時数
必修	心理学入門ゼミ	2
	演習Ⅰ	2
	演習Ⅱ	2
	卒業研究	2
学部選択必修	環境科学概論	2
	臨床心理学と人間	2
	人間科学のための統計学	2
	生物の適応と進化	2
	食生活論	2
	社会心理学	2
	人体の構造と機能	2
	情報科学応用演習Ⅰ	2
学科選択必修	行動科学統計Ⅰ	2
	発達心理学	2
	心理学研究法	2
	心理行動科学実験実習	4
	臨床心理学	2
	情報科学応用演習Ⅱ	2
	心理行動科学文献講読	2
	臨床心理学実習Ⅰ	2
	(心理査定)(講義を含む)	
選択	認知科学概論	2
	音楽文化論	2
	音楽による自己表現	2
	ジェンダーの心理学(生涯発達)	2
	性格心理学	2
	健康心理学	2
	社会心理学	2
	発達臨床心理学	2
	認知心理学	2
	深層心理学	2
	家族臨床心理学	2
	カウンセリング概論	2
	スクールカウンセリング論	2
	カウンセリング心理学	2
	認知情報処理	2
	心身医学概論	2
	心身医学各論	2
	精神科リハビリテーション学	2
	音楽療法とコミュニケーション	2
	文化と人間行動	2

表4 環境・バイオサイエンス学科
専門教育科目（2007年度）

(1)		
	授 業 科 目	時数
必修	入門ゼミ	2
	演習Ⅰ	2
	演習Ⅰ	2
	演習Ⅱ	2
	演習Ⅱ	2
	卒業研究	
	卒業研究	
	演習Ⅰ	2
学部選択必修	演習Ⅱ	2
	卒業研究	
	環境科学概論	2
	臨床心理学と人間	2
	人間科学のための統計学	2
	生物の適応と進化	2
	食生活論	2
	社会心理学	2
学科選択必修	人体の構造と機能	2
	情報科学応用演習Ⅰ	2
	環境科学基礎演習(講義を含む)	2
	バイオサイエンス基礎演習	2
	(講義を含む)	
	生命の科学実習(講義を含む)	2
	微生物学実習(講義を含む)	2
	食品機能解析実習(講義を含む)	2
	食品学基礎実習(講義を含む)	2
	生態学実習Ⅰ(講義を含む)	2
	応用微生物学	2
	環境科学	2
	環境社会学	2
	植物生態学	2
	動物生態学	2
	食品分子機能科学	2
	食品学	2
	生態毒性学	2
	健康医学	2
選択	地球生物圏の科学	2
	生物有機化学	2
	細胞生物学概論	2
	食品環境学	2
	物理学入門	2
	消費者問題論	2

表 5 (続)

(2)

	授 業 科 目	時数
選 択	行動科学統計Ⅱ	2
	比較行動学	2
	精神医学総論	2
	精神医学総論	2
	精神分析概論	2
	精神分析	2
	臨床心理学実習Ⅱ	2
	(心理療法)(講義を含む)	
	家族心理学	2
	集団力学	2
	文化心理学	2
	感情心理学	2
	医療心理学	2
	生理心理学	2
	人間工学	2
	人工知能論	2
	精神保健福祉援助基礎演習	2
	精神保健福祉援助演習	2
	精神医学各論	2
	臨床心理学実習Ⅲ	*
	(療法中級実習)(講義を含む)	
	精神保健福祉援助実習	*
	動物生態学	2
	文化人類学概論	2
	国際社会環境論	2
	健康医学	2
	Translation for Interpreters (English to Japanese)	2
	Effective Speaking (Debate, Presentations)	2
	Effective Writing (Essays, Reports)	2

註 心理・行動科学科専門教育科目：本付表の科目群から、必修18単位、学部選択必修科目10単位、学科選択必修科目6単位以上を含む80単位以上を履修すること。

表 4 (続)

(2)

	授 業 科 目	時数
選 択	生態人類学	2
	文化人類学概論	2
	国際社会環境論	2
	環境保護論	2
	環境と法律	2
	都市環境論	2
	外国書講読	2
	食糧経済学	2
	栄養化学	2
	食文化論	2
	生態学実習Ⅱ(講義を含む)	2
	病気の細胞生物学	2
	環境生態工学	2
	バイオテクノロジー概論	2
	環境政策学	2
	認知科学概論	2
	健康心理学	2
	発達臨床心理学	2
	精神分析概論	2
	精神医学総論	2
	精神保健福祉援助基礎実習	*
	精神保健福祉援助演習	2
	世親保健福祉援助実習	*
	Translation for Interpreters (English to Japanese)	2
	Effective Speaking (Debate, Presentations)	2
	Effective Writing (Essays, Reports)	2

註 環境・バイオサイエンス学科専門教育科目：必修18単位、学部選択必修科目10単位、学科選択必修科目20単位(実習8単位、講義12単位)を含む80単位以上を、本付表の科目群から履修すること。